

アウトリーチ報告

担当者：沼田 栗実

● 目的:

HIV/エイズに関する問題について、イベントなどを通じ、「考える」「知る」きっかけを提供する。

● 経過:

- ① 2021年度も引き続き、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の影響を受け、定例で参加していたイベントが中止やオンライン開催になり、ブース出展ができなかった。
- ② さっぽろレインボープライドにブース出展という形ではないが、オンラインイベントに参加という形で当日情報発信することができた。
- ③ イベントでのブース出展はできなかったが、資料の配架による情報提供や、ラジオ・web 配信のインタビュー等を通じて、HIV/エイズについての正しい知識など情報を提供・発信する事ができた。
- ④ 札幌市主催「ゲイ・バイ男性向け 即日 HIV 検査」の広報と相談員派遣を行うことができた。
- ⑤ 2021年度も引き続き、MSM ALL JAPAN の研究(ゆうそう検査キットの配布事業)に協力できた。
- ⑥ さっぽろレインボープライド実行委員会、にじいろスマイル、にじいろほっかいどう、ピンクリボンIn さっぽろ等、他団体と共に活動できた。

● 結果・効果: 実施イベント等

- ① イベントについては以下の通り、参加・協力した。

日付	参加イベント・参加スタッフ人数等
2021年 5月24日(月)	FMしろいし「すっきりマンデー」ゲスト出演 HIV の過去・現在・未来 スタッフ参加 1名
2021年 9月19日(土)	さっぽろレインボープライド オンライン配信企画トークイベント「どう・レインボー～それぞれの視点から」に参加 スタッフ参加 2名
9月26日(日)	札幌市ゲイ・バイ男性向けエイズ検査会協力 (広報・相談員派遣) スタッフ 2名(相談員 1名 準備手伝い 1名)
2021年 9月19日(日) 20日(月・祝) 10月2日(土) 3日(日) 9日(土) 10日(日) 12月22日(土)	厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の「ゆうそう検査」検査キット配布協力(一部業務委託) MSM ALL JAPAN のメンバー「にじいろほっかいどう」と協同で実施。 9月19日・20日・12月22日の札幌会場は協力、 10月2日・3日の旭川会場および10月9日・10日の函館会場については、業務委託という形を取っている。 北海道内でゆうそう検査配布 161名に配布 スタッフ参加 4名
2021年 11月18日(木) 11月30日(火)	三角山放送局での世界エイズデーに向けたラジオでの広報 スタッフ参加 1名 11月18日(木)生放送「ピンクリボン in さっぽろ」および 11月30日(火)放送「にじいろスマイルラジオ」ゲスト出演

- ② その他、イベント参加・ラジオでの発信というアウトリーチだけではなく、さっぽろレインボープライドでは公式マガジンのHIV/エイズ対策特集ページの対談に協力することで、情報発信することができた。
- ③ 厚生労働省研究班(MSM ALL JAPAN)の「ゆうそう検査」検査キット配布協力では、札幌市外に住むスタッフに協力いただいた。2021年度全体を通して、事務局以外のスタッフやヘルプスタッフと一緒に活動ができた。

● 課題:

2021年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行により、北海道医療大学大学祭「九十九祭」は中止となり、「さっぽろレインボープライド」もブース出展は中止、パレードもオンライン配信となった。その中でも、オンラインイベントには参加し、LGBT関連の他団体と情報共有できただけではなく、視聴者への発信ができた。世界エイズデー札幌実行委員会が主催の世界エイズデーシアターも Youtube 配信となり、例年参加しているイベントでのブース出展ができない一年だった。

その中でも、ラジオを通して、HIVについて伝える機会をたくさん持つことができた。例年、世界エイズデーイベントの広報としてラジオ出演し、イベントの広報だけではなく、HIVの情報を発信してきたが、2021年度は、12月1日にエイズデーに限らず、5月にも情報発信ができ、年間通じて、情報を発信していくことができた。各ラジオ出演をつないでくださり、分かりやすく伝えてくれたスタッフに、この場を借りて感謝いたします。

今後もラジオ等のメディア配信は引き続き行い、また、オンライン配信(SNSや Youtube 等)等、新しい形でのアウトリーチ活動を検討していく必要がある。

2021年度も引き続き、にじいろほっかいどうと協力でき、研究班の事業にも取り組めた。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的にも保健所での検査が縮小傾向にあり、検査数および検査機会は減少している中で、ゆうそう検査キットの配布を協力できたことは、検査機会の提供として、大きな活動だと考える。

この事業は、一部業務委託として、研究班からスタッフに対し謝礼金をいただく。前年度に引き続き、研究班の事業に協力いただいたスタッフのみに、交通費以外に謝礼金の一部から手当をお支払いしている。平等性に欠けないよう、手当基準を見直し、安定的に手当を支払えるようにしていくことが課題であると考え。今後、どのように資金を捻出していくか、アウトリーチ担当と事務局を中心に検討していきたい。

活動が制限される中ではあるが、HIV/AIDSについて基礎的な知識だけではなく、最新情報を含め HIV/AIDSについて理解を深られるよう、様々な形で情報発信をしていきたい。